

マリアの風 Web 4/5



宗教について

ある宗教法人の団体が解散命令を受けたというニュースがありました。そのニュースを見て少し考えるところがありました。それは聖マリア病院も宗教法人の病院だからです。宗教の果たす役割は何だろうかと問い直すきっかけになりました。

聖マリア病院はカトリックの精神に基づいて運営することを理念に掲げています。私は、宗教とは人間の力を超えた存在を認めてそれに頼るということではないかと思っ

ています。私達の生活の中で起こるいろんな出来事に関して、私達はどのように対処しているのでしょうか。人生は決して平穏なことばかりではありません。苦しいこと、受け入れがたいこと、耐え難いこともあります。そんな時、周りの人に頼ったり助けてもらったりして乗り越えますが、究極の心の叫びをぶつける相手は人ではなく、人以上のものへ向けられるのではないかと思います。人以上のものでなければ受

けとめられないものだとも思います。また苦しい事ばかりではなく、嬉しい思いや喜びも誰かに受けとめて欲しいと思うものです。それらを受けとめてくれる存在があること、それが宗教の力ではないかと感じます。

最近読んだ本に、神に対しての人の態度は信頼と希望とありました。宗教の名のもとで争いや揉め事が起こっているのも

事実ですが、宗教には争う要素はないはずだと思います。人を越えた存在へ信頼することによって、苦難の中にあっても希望をもたらしてくれるものだと思います。聖マリア病院が宗教法人の病院として信頼と希望のために尽くす病院であるよう、顧みながら、努めていきたいと思っています。

(院長 山中淳子)



令和7年度開始

4月1日 新年度の開始にあたり、病院長からのあいさつと新入職員の紹介が行われました。医療を取り巻く環境は課題が山積していますが、地域に必要とされる医療機関として患者さんに寄り添うことができるよう、一人ひとりが病院の理念の実現に向けて努力してほしいと話されました。





復活祭ミサ

4月20日 病院内で復活祭のミサをおこなっていただきました。入院中の患者さんに加え、福江修道院の高齢シスターたちも参加し、一緒に主の復活の喜びにあずかりました。福江教会主任司祭の中田神父様は、「十字架上のイエスさまは、そのままいいよ、という言葉をお私たちにかけられているのではないのでしょうか。わたしたちの神様は、加齢で思い通りにならないことや病気による心身の不自由さも一緒に担ってくださる神様です。」と温かいメッセージをくださいました。久しぶりのミサ、うれしい再会もあり、喜びに包まれた時間でした。



お告げのマリア修道会 下五島地区施設 職員研修会

4月24日 お告げのマリア修道会が運営する下五島地区内の施設の職員を対象とした研修会が行われました。講師は、カトリック福江教会助任司祭の稲田祐馬神父様でした。神父様は、ご自分の体験や聖書のことばを用いて、神さまの無償の愛がどんなに力強いかを「神の愛は人間を変えます」ということばで語られました。苦しみを抱える人に接することの多い職場にあって、職員一人ひとりが神さまの愛を感じさせる存在となることを神は望んでおられると教えてくださいました。



研修医紹介

Profile



おおの みおり
大野 美織 先生

Dr. Ono Miori

6月半ばまでお世話になります、研修医の大野美織です。福江島の第一印象は「星がきれい！」でした。カメラで撮りたい風景が広がっていて楽しいです。

たくさんの魚をいただくことと、海にたくさん行くことが目標です！ご迷惑をおかけすることばかりだと思いますが、2か月間よろしく願いいたします。

- ◇出身地…大阪府
- ◇趣味…プロ野球観戦（阪神ファン）、カメラ
- ◇志望科…外科
- ◇研修期間…令和7年4月20日～6月14日

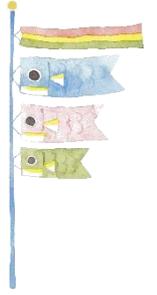


5月16日 防火訓練

5月25日 まごころひろば

5月31日 聖母月のつどい

6月19日 聖マリア病院学術研究発表会



次回発行日は令和7年7月1日です。

今月の写真



11時頃、窓の外を眺めていると、向こうの山から煙が上がっているのが見えました。煙は次第に山を包み、火柱が立ち、林野火災へと発展していき、ヘリコプターからの消火作業が翌日まで続きました。大きな惨事にならず、ホッとしました。

編集者より

復活祭を迎えた喜びも束の間、教皇フランシスコが帰天しました。「ねばならない」思考や従来の慣習にとらわれがちな時代に、優しく、温かく、ユーモアにあふれた教皇の言葉は、価値観の転換を促すものでした。私たちは、ものや時間を少し譲ること、人への思いやり、控えめな言葉と態度で、誰かにとっての温かい息抜きになることができるということが最後の手紙に記されていました。日々の生活で、私の存在は身近な人の喜びとなっているのでしょうか。将来、天国で問われるのはそのようなものかもしれません。

(編集者)